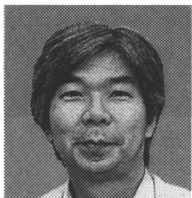


読書は高校生にどんな効果があるのか。「脳を創る

読書」(実業之日本社)の著者で東京大大学院総合文



酒井邦嘉教授

化研究科の酒井邦嘉教授(四九)言語脳科学は、二点を指摘する。一つは勉強で問題解決に導く力が身につくこと。活字は音声や映

像より情報量が少なく、想像力で補う必要がある。著者の伝えたいことなどを自分の言葉で理解しようとする。

授業も同じ。ただ受けるのでなく、能動的に考えながら理解できるようにかみ砕くプロセスが必要だ。どこが分からないか、本を読むように自分の言葉で表現できれば質問して解決に近づける。「読書好きはそういうことがわかってる子

が多い」という。

二つ目は一冊の本との出会いが将来に影響を与える可能性があること。「高校時代は自我や個性が発達して大人になる直前。本がびったり合えば、個性を伸ばしたり、進路や職業を決めるきっかけになる」。だから、たくさん読むよりじっくり読むことを勧める。「本を前にすると、脳が不思議と関心のあるキーワードを見つけてくれる」とする。

一冊が人生変えることも